

科目名	国際経済政策論特講	担当者	リク 陸 ユウケン 亦 群	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	---------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	近年の世界経済では、グローバルな貿易自由化が進められると同時に、地域統合への活発な動きも見せている。特に1990年代以降、企業や産業のグローバルな経済活動に伴い部品・コンポーネントなどの中間財の貿易が拡大し、グローバル・バリュー・チェーン（GVCs）が広域に発展してきている。そのような近年の国際分業の特徴は市場のグローバル化、政治と政策、企業の行動など様々な視点から考察することが求められる。本講座は、国際分業構造の変化、企業の海外進出、地域経済の発展などの関連性に着目し、理論・実証・政策の面から国際経済政策を分析することを目的とする。		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】</p> <p>グローバル化時代下の経済政策が各国経済と地域経済に与える影響を把握するために、国際経済と経済政策の理論的考察の知識および実証分析手法を習得し、国際経済政策問題の理論的アプローチの変遷を理解し、仮説の提起・検証のプロセスを熟知することを到達目標とする。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <p>ミクロ経済の基礎理論と国際貿易理論を応用することができる。</p> <p>生産活動のグローバル化と国際分業構造の変化を説明することができる。</p> <p>経済政策と経済開発問題の推移を説明することができる。</p> <p>通商政策と地域経済発展の関連性について把握することができる。</p> <p>国際経済政策と地域経済統合との関わりについて分析することができる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>基礎理論の指導や質疑応答はオンラインディスカッションを行い、研究課題報告についてはグループディスカッションを行う。</p> <p>【学修方略（LS）と学修時間】</p> <p>（自習）基本教材リーディング 学修時間：12時間</p> <p>（自主研究）研究論文サーベイ、参考文献の検索 学修時間：12時間</p> <p>（ディベート）オンラインディスカッション 学修時間：12時間</p> <p>（研究課題報告などの協働学習）ピア・レスポンス 学修時間：12時間</p> <p>（レポート作成）レポート作成及びレポート推敲 学修時間：12時間</p>		
スケジュール	レポート提出には前期・後期ごとに期限が設けられており、提出期日は学事歴で定められた日までに提出すること。受講開始後、課題へのアプローチ方法がわからず、初稿期限（提出期限1か月前）までに課題提出することが難しいと考えた場合には、早期にメールなどを使って連絡すること。		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	課題レポートの内容を正しく理解しているかどうか、教材や参考図書を理解し、自分の意見を加えてまとめられているかどうかを基準とする。
	観察記録	20%	レポートの事前準備や最終提出までに複数回のレポート交換ができていないかなどといったレポート作成のプロセスを基準とする。
履修者への要望	基本教材を熟読し理解したうえで、上記列挙の文献に限定せず、本屋や図書館で関連文献を入手し、インターネットなどでも検索し、積極的な知識欲を持ってほしい。レポート執筆にあたっては、自説と他説をはっきり区別し、レポート形式を守って客観的に論述し、文末に参考文献リストを付けるようにして下さい。参考文献についても、推薦参考図書に限定せず、本屋や図書館での関連文献の入手、インターネットでの検索も活用してほしい。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 若杉隆平 教材名： 『国際経済学(第3版)』(岩波書店, 2009年) ISBN:978-4-00-026699-4 2,800円+税
	本書は、まず国際経済に関するデータの把握から入り、国際経済学の基礎理論を概説し、そのうえで不完全競争下での新貿易理論を網羅して、完全競争下の貿易政策や不完全競争下の戦略的貿易政策を解説した。さらに企業生産性の差異を国際貿易に取り込んだ「新々貿易理論」を紹介し、それをベースに直接投資、アウトソーシングや技術移転などの国際貿易の新たな側面を取り上げている。本書は、理論的アプローチを踏まえて望ましい国際経済政策の在り方を考察するための基本教材として位置づけられる。
参考図書	木村福成『国際経済学入門』(日本評論社, 2000年) ISBN:978-4-53-555128-2 3,200円+税 ヘルプマン『グローバル貿易の針路をよむ』(文真堂, 2012年) ISBN:978-4-83-094765-0 2,600円+税 清田耕三・神事直人『実証から学ぶ国際経済』(有斐閣, 2017年) ISBN:978-4641165175 2,800円+税
履修上のポイント	教材および参考書を熟読して、国際貿易の基本モデルである伝統理論のリカードモデル、新古典派のヘクシャー＝オリー＝モデル、製品多様性、産業内貿易や規模の経済といった新国際貿易理論をマスターし、企業の異質性を踏まえて、基礎理論をしっかりと把握してください。
レポート課題 1	現在の国際貿易はどのようなパターンで行われているのか、それぞれの国が国際分業を通じてどのようなメリットを得たのかについて論じなさい。 留意点： 上記の履修ポイントを押さえて、国際経済学の基礎的な理論ベースを踏まえて論理的に考察して客観的に結果をまとめるようにしてください。
レポート課題 2	自由貿易の推進は一国の経済成長にどのようなインパクトを与えるかを肯定的に論じなさい。 留意点： 通商政策の理論、保護貿易の論拠を踏まえて、主観的な意見ではなく、具体例を挙げながら論理的に結果を導くようにまとめてください。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 西口清勝 教材名： 『現代東アジア経済の展開』(青木書店, 2004年) ISBN:978-4-25-020431-9 3,200円+税
	本書は、開発経済の分析視点から、東アジア経済の「激動の10年」を「奇跡」の経済発展から危機への転落として捉え、実証と理論の両面から検討し、地域協力という最新の動向を踏まえ東アジア共同体の可能性を考察したものである。本書全体は8章から構成されている。第1章では、90年代以降の開発経済学におけるパラダイム転換に触れ、世界銀行が提起した新たなアプローチである「市場補完アプローチ」に着目している。第2章から第5章においては、「奇跡」から危機への展開とアジア通貨危機を歴史の連続性から、すなわち危機を奇跡からの連続性で要因を究明し分析が行なわれている。第6章から第8章では、東アジアにおける地域協力の問題を取り扱い、最後に東アジア共同体の可能性を展望し、日本が果たすべき役割についての著者の見解が示されている。
参考図書	陸亦群・前野高章・羽田翔・安田知絵『現代開発経済入門』(文真堂, 2020年) ISBN:978-4-83-095082-7 2,300円+税 馬田啓一 木村福成『検証・東アジアの地域主義と日本』(文真堂, 2008年) ISBN:978-4-83-094614-1 2,800円+税 トラン・ヴァン・トゥ 松本邦愛編『中国—ASEAN の FTA と東アジア経済』(文真堂, 2007年) ISBN:978-4-83-094606-6 2,600円+税
履修上のポイント	本書は「奇跡」、「危機」および「地域協力」のキーワードに沿って、三つの部分から構成されている。初心者には多少難解かと思われるところがあるが、各章において東アジア経済および地域経済協力関連の先行研究の理論的考察とリファレンスを豊富に取り上げているので、必要に応じて参照し、参考図書と合わせて読まれることが望ましい。
レポート課題 1	東アジアの経験を踏まえて開発戦略の展開における市場と政府について論じなさい。 留意点： 開発戦略の展開は、経済開発の歴史的推移および開発理論の形成との関連性が重要である。マーケットフレンドリーの考え方および基本教材2の論点をきちんと整理し、それを吟味したうえで、自分の意見をまとめるようにしてください。
レポート課題 2	地域経済統合に向けた流れと東アジア新興国の国際経済政策選択について論じなさい。 留意点： 東アジアにおける地域経済協力の歴史的推移をまとめることに止まらず、近年のFTA/EPA交渉、ASEAN+3、ASEAN+6、TPP交渉ならびにFTAAPなどの動向を踏まえて、基本教材の論点・見解に拘らず、国際経済政策のあり方について議論してほしい。

基本教材 1

第 1 回	基本教材の学修：「学ぶべき課題」について全体的な理解をし，教材および参考図書に基づく学修を行う
第 2 回	基本教材の学修：伝統的貿易理論と比較優位，分業の利益
第 3 回	基本教材の学修：新古典派貿易理論と要素賦存，要素価格均等
第 4 回	課題論文の検索と分析
第 5 回	基本教材の学修：保護主義的貿易政策と関税，輸出補助金等
第 6 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成，ピア・レスポンス
第 8 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 9 回	基本教材の学修：消費の多様性，独占的競争モデル，新貿易理論
第 10 回	基本教材も学修：企業の異質性，オフショアリング，新々貿易理論
第 11 回	課題論文の検索と分析
第 12 回	基本教材も学修：世界経済における貿易の自由化と経済統合
第 13 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成，ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

基本教材 2

第 1 回	基本教材の学修：「学ぶべき課題」について全体的な理解をし，教材および参考図書に基づく学修を行う
第 2 回	基本教材の学修：開発経済学におけるパラダイムシフト，市場補完アプローチ
第 3 回	基本教材の学修：アジアの「奇跡」からアジア通過・経済危機への展開
第 4 回	課題論文の検索と分析
第 5 回	基本教材の学修：アジア通貨・経済危機の歴史的連続性とアジア発展のための新戦略
第 6 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成，ピア・レスポンス
第 8 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 9 回	基本教材の学修：アジアの経済発展，アメリカの東アジア戦略
第 10 回	基本教材も学修：オープンリージョナリズム，域内経済協力の新展開
第 11 回	課題論文の検索と分析
第 12 回	基本教材も学修：東アジア共同体の可能性と日本が果たすべき役割
第 13 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成，ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成